

大垣日大 女子 7年ぶりV

「都大路」切符つかむ

第69回男子・第30回女子 庁前を発着点とするコノ子県高校駅伝は4日、県ス(男子7区間42・1

県高校駅伝



各校のエースが集まる1区で、トップと僅差の2位でつないだ女子大垣日大・松本七＝県庁前

1区松本七粘走、流れつくる

V ストリーリー

昨年、けがのため出場できなかったエースが、流れをつくった。女子の大垣日大は、1区に起用された松本七海が粘りの走りを見せ、7年ぶりに制覇に貢献した。「区間賞を逃したことは悔しいが、優勝につながる役割は果たせた」

と会心の笑みを浮かべた。最長であると同時に流れを決める各校のエースが集う1区。中でも2週間前のぎふ清流駅伝で、最優秀選手にも輝いた中京学院大中京の荒武優衣香がレース前から注目されていた。松本七にとって、荒武の独走だけは阻止しなければならなかった。

1区すぎ、荒武が一気にペーシングアップしたが「揺さぶりは掛けてくると思っていただけで、対応できた」と焦らず、力まないように徐々にペースアップ。2人の勝負になった。残り約300mのラストスパートで離されてしまったが、北野孝英監督は「十分な動き。前の選手が見える位置で、たすき渡してくれた」と尻尾を下げた。

昨年、松本七に加え、2区の河瀬優伽も、県大会前のけがで出場すら叶わなかった。疲労骨折だった松本七は「昨年の悔しさもぶつけて、目いっぱい勝負できた」とリベンジを達成し、笑み。都大路へと夢は続くが「7年前に出場した先輩たちの記録を破りたい」と闘志を燃やした。

(富樫一平)

95キロ、女子5区間21分09秒で行われ、男子は中京学院大中京が11年連続38度目、女子は大垣日大が7年ぶり2度目の優勝を遂げ、「都大路」切符をつかんだ。中京は4区でトップと28秒差の3位でたすきを

受け、2区河瀬優伽がトップに躍り出ると、その後のメンバーも安定した走りで見事な2位の県岐阜商に1分以上の大差を付けた。

▽男子 ⑦中津商⑧大垣日大⑨北⑩美濃加茂⑪益田清風⑫美⑬美濃加茂⑭益田清風⑮美⑯美濃加茂⑰美濃加茂⑱美濃加茂⑲美濃加茂⑳美濃加茂㉑美濃加茂㉒美濃加茂㉓美濃加茂㉔美濃加茂㉕美濃加茂

▽女子 ①大垣日大②岐阜商③中京院中京④美濃加茂⑤益田清風⑥済美

【女子】 (☆は区間賞)

順位	総合 (21.0975km)	1区 (6.0km)	2区 (4.0975km)	3区 (3.0km)	4区 (3.0km)	5区 (5.0km)
①大垣日大	1時間13分53秒	松本七海 21分0秒	河瀬優伽 ☆14分7秒	加藤沙良 ☆10分33秒	松本千波 10分42秒	吉村唯 ☆17分31秒
②県岐阜商	1時間15分7秒	加藤若葉 21分39秒	加藤愛結 14分15秒	伊藤優衣 ☆10分33秒	堀みちる 10分41秒	林亜弥香 17分59秒
③中京院中京	1時間15分36秒	荒武優衣香 ☆20分54秒	若尾真奈 14分49秒	安藤みなみ 10分41秒	安達璃香 10分53秒	近沢奈々 18分19秒
④美濃加茂	1時間16分18秒	須田花音 21分55秒	永岡紗梨 14分53秒	杉山静香 10分46秒	泉さくら ☆10分25秒	前島風香 18分19秒
⑤益田清風	1時間17分34秒	石丸夏帆 21分43秒	塚中碧泉 14分44秒	上村莉沙 10分50秒	山下莉来 11分30秒	滝下瑠菜 18分47秒
⑥済美	1時間18分47秒	加藤愛梨 22分7秒	矢島愛実 15分46秒	堀明日香 11分5秒	藤井優羽 11分2秒	川部寿々実 18分47秒